

令和7年度 第3回北九州市いじめ問題専門委員会 会議録（要旨）

【日 時】

令和8年2月20日（金） 14:00～15:30

【場 所】

小倉北区役所庁舎東棟6階教育委員会会議室

【出席者】

委 員：今村浩司、上野直生、藤井身依、山下潤子、山下博徳、吉田麻衣（五十音順・敬称略）

事務局：教育長、教育相談・特別支援教育担当部長、生徒指導課長、学校支援担当課長、  
学校支援担当課長、ほか5名

【議題、議事の概要】

（1）教育長挨拶

（2）議題

ア 北九州市のいじめ防止の取組について

イ いじめ重大事態の対応状況について（非公開）

【主な質疑応答、意見等】

議題（ア）北九州市のいじめ防止の取組について

事務局：（北九州市のいじめ防止の取組について説明）

委 員：ネットいじめ防止では加害防止だけでなく、いじめを見かけた際の対応や相談先も示すべき。  
気づいた第三者がどう行動すべきかの視点も重要。

委 員：いじめ調査のオンライン化は、疑い段階での早期報告（第一報）が有効ではないか。医療現場の  
ように不確定でも早く共有しないと、不信感や把握遅れにつながる懸念がある。

事務局：ネットいじめ対策は、被害者・加害者双方にならない意識を重視している。「大人に相談」とい  
う啓発はあるが、具体的な窓口は今後周知したい。

事務局：いじめは相談・アンケート・目撃など多様な経路で把握され、一定の事実確認後に「疑いが強い  
段階」で第一報を入力する運用。後に認知されない場合は報告取り下げも想定している。

委員：ネットいじめ防止の取組は、生徒が自分や仲間を守る視点で考える良い機会となった。今後のポスター作成にもその成果が活かされると期待。

委員：性的画像の強要や AI 加工など新たな問題への対応も必要。ネット利用は保護者の関与が不可欠であり、家庭でのルール作りを支援する体制も求められる。

事務局：来年度のフォーラムでは保護者参加を検討し、AI 画像体験などを通じて共通理解を図りたい。子どものルールを大人が支える仕組みも検討する。

委員：いじめ対応は迅速さだけでなく適切な聞き取りが重要。不十分な調査や拙速な対応は逆効果となり、後の対応でも信頼回復は難しい。

事務局：第一報は認知ではなく「疑いが強い段階」での共有を目的とし、組織的対応につなげるもの。迅速さと適切さの両立は、研修等で教職員に周知していく。

委員：迅速化の仕組みは必要だが、スピード重視による弊害も懸念される。個々の事案を大切にしつつ、適切なバランスを検討する必要がある。

議題（イ）いじめ重大事態の対応状況について

※ 以下、非公開。